

令和五年度 垣生中俳句会（四月） 入賞作品

金賞

マスクなし笑顔輝く新入生

一年生の皆さん、ようこそ垣生中俳句会へ。そんな気持ちを表した先輩からの歓迎の俳句です。数年ぶりに、マスクなしで、在校生全員が参列した入学式でした。リモートとかYouTube配信とか便利な仕組みがコロナ禍で普及しましたが、やはり一堂に会する式典の荘厳な雰囲気には代わるものはありません。そうして、さすが垣生中俳句会入賞の常連の作者。素敵な句を作ってくれました。



銀賞

母さんと入学準備春の夜

入学式前夜の様子が手に取るように分かりますね。入学案内のプリントを見ながら、準備するものを一つ一つ鞆に入れていくさまが浮かぶ、ほほえましい句です。どこの家庭にもありそうな風景ですが、「春の夜」という季語と取り合わせたことで、作者のどこか不安げな、しかし一方で希望も抱いていることがよく伝わってきます。



銀賞

きらきらと春めく気持ちと通学路

「きらきらと」は状態をそれらしく伝える擬態語です。擬態語を巧みに使うと人の気持ちを引き付ける新鮮な句になることを垣生中生に教えられた思いです。「春めく」という微妙な感覚を表す季語を使ったのも奏功しましたね。「気持ち」と「通学路」を並列させたこともこの句の印象に変化を与えました。きらきらと輝く種を蒔きにけり 星野立子

銅賞

入学式不安と期待で大荷物

「大荷物」という表現が、いかにも新入生が苦勞しながら大きな鞆を背負って通学しているようで、共感を得たのでしよう。生徒会長の歓迎の言葉でも分かったように、多くの先輩たちは一年生のこの時期、「不安」の方がずっと大きいはず。一年生が少しずつ学校に慣れて、鞆の重さをもっともせず力強い歩みを始めてくれるよう、皆でエールを送りたい気持ちです。

銅賞

春の空中堅学年いざ参る

「いざ参る」が効いています。新しい学年への意気込みがよく分かる潔い句です。中だるみの二年なんて言わせないぞという心意気で、春の空という明るい季語に文語を合わせたユーモラスな表現が成功しました。く首長ききりんの上の春の空 後藤比奈夫く

銅賞

春の朝一喜一憂クラス替え

一喜一憂という四字熟語を意識的に使ったことで、魅力が増しましたね。クラス替えのことを詠んだ俳句はたくさんありましたが、こういう表現の工夫をすることでありきたりから脱却でき、読む人へのインパクト大にもなります。一憂が早く消えますように・・・。

入選

菜の花の黄色い花粉服に付く

登校がぎりぎりセーフ春の雲

入学式何度も見直すクラス分け

写真撮る桜が頭に乗った

バーベキューそよ風吹いた春の風

入学式先輩としての第一歩

春の暮新しい自分第一歩

うぐいすに鳴き声下手ねと言り返す

祖父に勝つ将棋の一手春の風

祖母の家忘れ去られし葱坊主

燕の巣大きな穴からお腹二個

満開の桜の下でメロンパン

春眠に抗う机上午後三時

春の朝うつつうしいが雨もよし

